

佐賀県に住む祖父は、数年前から認知症を患っている。先日、その祖父が行方不明になった。ちょっと出かけてくると言っただけで家を出たきり数時間経っても戻ってこない、心配した祖母から母に電話があったのだ。すぐに私達家族は、祖父に持たせていた携帯電話のGPS機能を使って、祖父を探し回った。結局、佐賀の自宅から五十キロメートルも離れた糸島の農道で祖父を見つけることが出来たのだが、混乱して話がかみ合わない祖父は、なかなか車には乗ってくれなかった。そうこうしているうちに、佐賀の警察署から連絡を受けて捜索を手伝ってくださっていた糸島警察署の方も駆けつけ、一緒に説得して下さった。そうしてようやく、祖父は車に乗ってくれたのだ。炎天下の中、捜索を手伝い、祖父を説得して下さった警察官の方には、感謝の気持ちでいっぱい。

祖父を祖母のもとへ送り届けた後、私はふと、あんなに離れた場所にいた祖父をなぜこんなにスムーズに保護できたのだろうと疑問に思った。もちろん、祖父が携帯電話を持って出ていることも大きかったのだが、祖父が行方不明になってから保護するまでの段取りが実にスムーズだったのだ。母にそのことについて尋ねると、祖母が祖父の徘徊について事前に役所に相談し、市の提供する「あんしん登録（行方不明時のスムーズな捜索・保護を目的とした事前登録事業）」に登録を済ませていたことを教えてくれた。つまり、祖父が行方不明になる前から、大勢の方々が協力し、見守ってくれていたのだ。

私はこれまで、行政サービスについて授業で聞いたことはあっても、自分事として考えたことはなかった。しかし、今回の件で、見守りが必要な人を家族に持つ人達にとって、相談したり、支援を受けたりできる環境があるということが、本当にありがたく、心強いことなのだ実感した。そして、これらの行政サービスを支える税金が、私達が安心・安全に暮らしていく上で必要不可欠なものなのだと、改めて気づかされた。

普段意識していないと忘れてしまいがちだが、私達の生活は、多くの場面で税によって支えられている。私達中学生にとって身近なところでは、学校だ。校舎はもちろん、机や椅子などのあらゆる設備や、無料で配布される教科書も全て税によって賄われている。他にも、普段何気なく利用している公園、無料で本を借りられる図書館、病院を受診した際の診療費や薬代の助成費用、ごみの処理費用なども、税によって賄われている。

税について考える時、税を負担する側の立場にだけ立つのではなく、その役割りと大切さにもしっかりと目を向ける必要がある。そうすれば、みんなが納得し、より暮らしやすい社会が実現できるのではないだろうか。